

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020140

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	
単位施策	2 多面的機能の発揮	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	町有保安林更新事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	生活環境の保全		#N/A	
事業目標	保安林更新 A=15.76ha	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	有 森林施業計画	

122	全体計画 事業内容	平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計	保安林更新 A=15.76ha (皆伐・造林) 普通下刈 A= 30.58ha	保安林更新 A=3.58ha (皆伐・造林)	保安林更新 A=2.04ha (皆伐・造林) 普通下刈 A= 3.58ha	保安林更新 A=3.70ha (皆伐・造林) 普通下刈 A= 5.62ha 標準地調査 5箇所	保安林更新 A=2.74ha (皆伐・造林) 普通下刈 A= 9.32ha 標準地調査 5箇所	保安林更新 A=3.70ha (皆伐・造林) 普通下刈 A= 12.06ha 標準地調査 5箇所	
計画 事業費	事業費(千円)	27,000	2,600	3,800	7,100	5,800	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	9,180	1,560	1,200	1,920	1,920	
	地方債	0					
その他	11,820	1,040	2,280	3,100	2,300		
一般財源	6,000		320	2,080	1,580	2,020	
実績 事業費	事業費(千円)	6,336	2,573	3,763	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	2,477	1,211	1,266			
	地方債	0					
その他	3,846	1,362	2,484				
一般財源	13		13				
関連 事項	特定財源の名称 町有林造林事業補助金 町有林下刈事業補助金 町有林素材売払収入 二トリ北海道応援基金 助成金	【評価・実績】	(実施内容等) 保安林更新 A=3.58ha (皆伐・造林)  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 保安林更新 A=2.04ha (皆伐・造林) 普通下刈 A= 3.58ha  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等)   ※事務事業評価結果	(実施内容等)   ※事務事業評価結果	
	前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	保安林更新 A=3.58ha	保安林更新 A=2.04ha	保安林更新 A=3.70ha	保安林更新 A=2.74ha	安林更新 A=3.70ha
		年度達成率	99%	99%	0%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	10%	23%	23%	23%	23%
		事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆			

事業名	町有保安林更新事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

様式1  
平成26年度実施  
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	防風保安林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	保安林更新面積、下刈面積	
【抱える課題やニーズは】	防風保安林については、標準伐採林齢の約2倍(植栽して概ね55年)が経過しており、このまま年数が経過すると折損、倒木の可能性が高まる	指標(指標計算式/解説)	指標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	保安林を更新することで、防風効果を高める	① 保安林更新面積÷保安林更新計画面積	目標年度	平成26年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	本事業の実施で、保安林の機能が維持され、生活環境の保全が図られる		目標値	2.04 ha
			実績値	2.04 ha
		② 下刈実施面積÷下刈計画面積	達成度	100.0 %
			目標年度	平成26年度
			目標値	3.58 ha
			実績値	3.58 ha
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①保安林の更新	保安林の更新を図るため、林帯の半分を伐採し、植栽を行った		
	②下刈の実施	保安林の健全な育成を図るために、苗木の周囲に繁茂して苗木の生育に支障となる笹・草の刈払いを実施		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町の防風保安林は、標準伐採林齢の約2倍(植栽して概ね55年)が経過しており、このまま年数が経過すると折損、倒木等で森林の多面的機能の発揮に影響を及ぼすことから、計画的な保安林整備が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	保安林の機能が維持され、生活環境の保全が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	公共造林補助事業の対象事業であり、北海道が示す標準単価を参考にして造林事業を実施していることから、事業コストは妥当である。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	また、事業実施にあたっては、補助事業の要件を充たす必要最低限の実施に努めている。
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	国の実施要領(森林環境保全整備事業)で定められている負担区分に基づき負担している。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
保安林機能の維持を図るため、適切に伐採・新植造林を行うことができた。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
保安林を更新することで、森林の多面的機能が維持され、生活環境の保全が図られることから、継続して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止